

住民とともに福祉の まちをつくりたい！

阪神・淡路大震災社協職員救援活動記録集



(写真提供：神戸新聞社)

兵庫県下社協職員協議会

兵庫県社会福祉協議会
阪神・淡路大震災社会福祉復興本部

住民とともに福祉のまちをつくりたい！

・―――阪神・淡路大震災 社協職員救援活動記録集

神戸大学人社系図



00098033038

目 次

はじめに	1
阪神・淡路大震災の被害	
写真で見る震災と社協活動	
第1章 震災以後、社協がおかれた状況	11
第2章 被災地の社協職員はどう動いたか	
1. 避難所運営に関わって	13
・矢野貴俊（西宮市社協）・小山達也（伊丹市社協）・山内 諭（宝塚市社協）	
・山添光誠（津名郡一宮町社協）・平居秀人（神戸市社協）	
2. ボランティア活動支援を担当して	25
・吉田史郎（神戸市社協）・元塚田鶴子（西宮市社協）・吉川義明（明石市社協）	
・津田和輝（芦屋市社協）・吉野貞旨（伊丹市社協）・森 綾子（宝塚市社協）	
・小西克宜（川西市社協）	
3. 地域組織・在宅福祉を担当して	44
・松村聡一郎（尼崎市社協）・植村弘巳（西宮市社協）・阪本幸恵（宝塚市社協）	
・白井佳之（伊丹市社協）・北村俊雄（川西市社協）・前信靖隆（西宮市社協・青葉園）	
4. 生活福祉資金特別貸付を担当して	60
・金子麻理（神戸市社協）・立石紀久子（西宮市社協）・佐藤健二（川西市社協）	
5. 事務局長として	69
・殿勝 宏（川西市社協）・藤田博富（三木市社協）	
第3章 支援活動に関わって	
1. 県内の社協として	75
・黒田直志（洲本市社協）・馬場正一（県社協）・水田利一（加古川市社協）	
・種子美穂（黒田庄町社協）・山本正幸（宍粟郡一宮町社協）・吉谷紀之（竹野町社協）	
・田村ひろ子（春日町社協）	
2. 県外の社協として	96
・佐藤貞良（大阪府社協）・芝田宇佐男（京都府社協）・吉田光臣、山本茂樹（岡山県社協）	
・上地幸博、久米秀生、佐伯明彦（徳島県社協）	

は　じ　め　に

1995年1月17日午前5時46分に起きた阪神・淡路大震災は、戦後最大の災害でした。

被災地の社協事務局は、自らも被災者であったにもかかわらず震災直後から被災住民と共に全精力をかたむけて救援復興活動に取り組んでいました。それは、刻々と変化する被災者の状況の変化する中での取り組みであり、かつて経験したことのない活動の多様性、緊急性、そして膨大な業務量でした。

また、被災地外社協の救援活動も素早く適切なものでした。それは県内だけにとどまらず、全国各地から社協関係者が被災者ならびに被災地社協の救援、応援のためかけつけてくれました。被災地の各社協では、自分たちが孤立していなかったことに感謝し、救援活動の励みにしていたことを思い起こします。

これらの被災地内外の社協の取り組みは被災地ではけっして小さなものでなかったことは言うまでもありません。

この度、震災直後から4か月までを中心とした社協職員の震災体験記録をまとめました。この記録集を作成した動機としては3つありました。

1つは、「震災直後、社協職員は何を思い、どう行動したのか」を記録に留め、社協職員（ワーカー）の活動を自ら点検しようとするものです。特に、被災地の社協職員の多くは救援・復興活動になかなか達成感が得られず、焦りと疲労の間で活動を続けています。私たちは個々の社協職員（ワーカー）が記録を書くことを通じて、これまでの行動を冷静に見つめ、今後の復興活動の原点にしたいとの思いからです。ですからこの記録は社協組織ではなく、社協職員（ワーカー）に焦点を当てたものとなっています。

2つめは、社協会員である被災住民が震災時においても住民福祉活動を続けていたことを少しでも記録に留めたかったからです。また、応援に駆けつけた社協にも多くの住民が共にかけつけて下さったことを留めたかったからです。ただし、各記録は社協職員によって記されたものであり、住民の福祉活動を全て記しているわけでないことをご了承ください。

3つめは、全国各地から応援に来て下さった社協職員、社協構成員である住民の方々への感謝の気持ちを伝えたいからです。あのときほど全国に社協職員の仲間がいて、励ましてくれることを心強く感じたことはありませんでした。特に、大阪府社協職員有志、和歌山県内社協職員有志、大分県社協職員連絡協議会からは、兵庫県下社協職員協議会を通じて被害のあった社協職員へのお見舞をいただいたことは驚きと共に感激いたしました。

あらためて、全国各地からの支援に対してお礼を申し上げます。

1997年3月

兵 庫 県 下 社 協 職 員 協 議 会

兵庫県社会福祉協議会 阪神・淡路大震災社会福祉復興本部

写真で見る震災と社協活動

被災

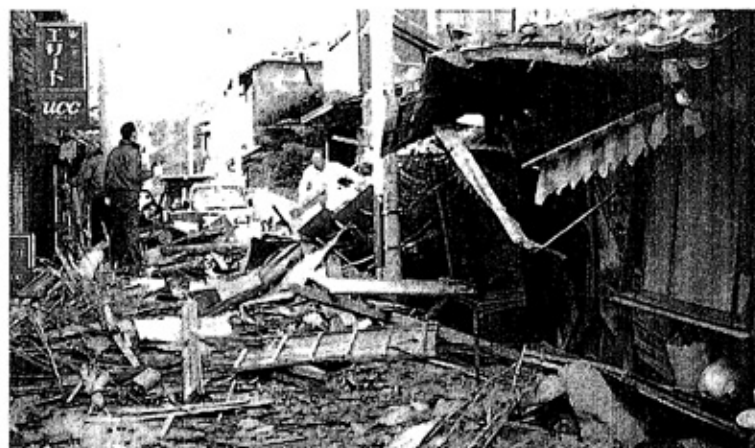
震災直後発生した火災は
まちを焼きつくした。
＝神戸市長田区＝



地震の時に止まった時計



約600mにわたり横倒しに
なった阪神高速道路
＝神戸市東灘区＝
(神戸新聞社提供)



商店街も大きな被害をうけた ＝淡路島＝ (徳島県社協提供)



震災直後 ＝神戸市三ノ宮周辺＝ (岡山県社協提供)

死者・負傷者数と家屋の倒壊・焼失数

平成9年3月末現在

区 分	死 者	行方不明	負 傷 者	全 壊		半 壊		焼 失 棟 数	
				棟 数	世 帯 数	棟 数	世 帯 数	全 焼	半 焼
神戸市	4,561	1	14,679	61,800	109,212	51,125	121,632	7,046	333
東灘区	1,469		3,383	12,832		5,085		338	54
灘 区	932		1,112	11,795		5,325		495	102
中央区	243		3,782	5,156		5,533		72	47
兵庫区	553		1,755	8,148		7,317		1,058	13
北 区	12		817	256		3,002		1	
長田区	917		533	14,662		7,770		3,930	87
須磨区	400	1	637	7,466		5,344		1,150	22
垂水区	24		1,020	1,148		8,703		2	5
西 区	11		1,640	337		3,046			1
尼崎市	48		7,131	5,569	10,902	35,162	50,191	8	
西宮市	1,125	1	6,386	20,713	34,181	14,602	27,116	50	2
芦屋市	442		3,175	3,924	7,588	3,572	9,928	11	1
伊丹市	22		2,716	1,395	2,432	7,498	14,360	1	
宝塚市	117		2,201	3,553	5,535	9,296	14,737	2	
川西市	4		551	554	600	2,728	3,000		
明石市	10		1,884	2,941	4,239	6,673	10,957		
洲本市	4		44	17	17	663	663		
津名町	5		42	603	603	893	893		
淡路町	1		57	333	333	668	668		
北淡町	39		870	1,056	1,049	1,217	1,223	1	1
一宮町	13		162	765	765	736	736		
五色町			17	186	186	269	269		
東浦町			46	319	325	461	469		
緑 町			14	18	18	49	54		
西淡町			5	136	136	178	178		
三原町			4	18	18	119	119		
南淡町			5	9	9	69	69		
その他	3		82	25	26	118	142		
合 計	6,394	2	40,071	103,934	178,174	136,096	257,404	7,119	337
				(倒壊家屋 240,030)		(倒壊世帯 435,578)		7,456	

凡 例



..... 死 者



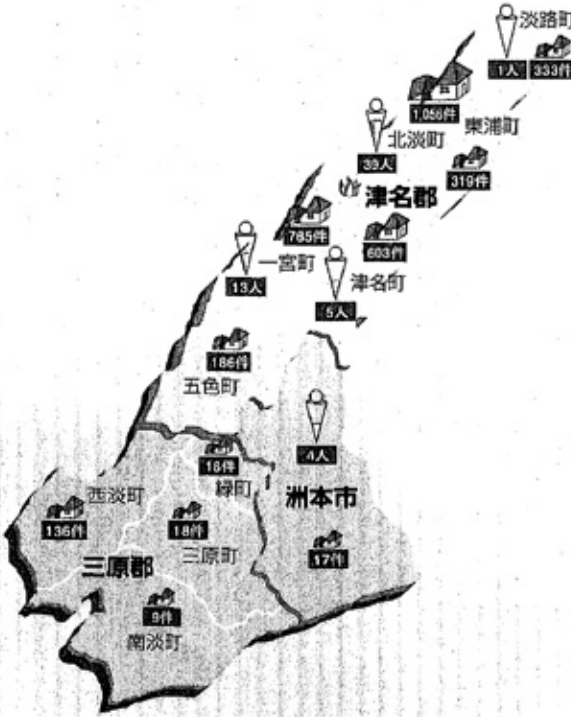
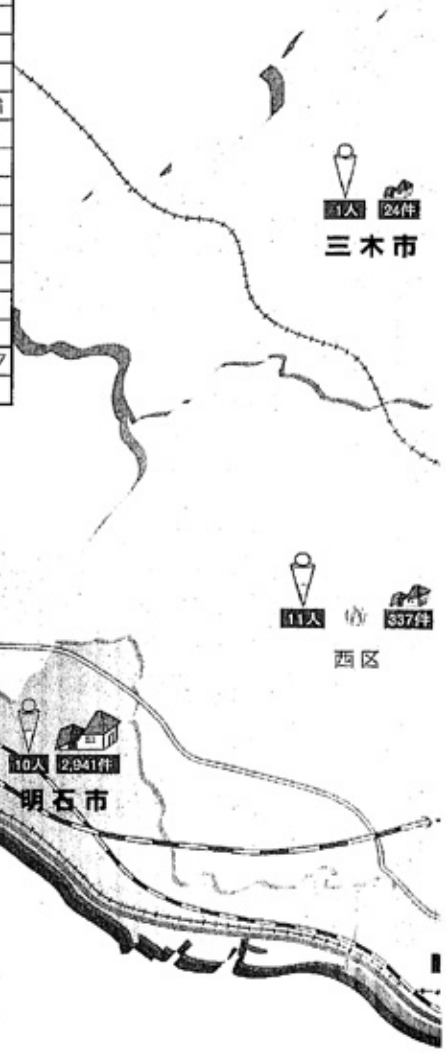
..... 火 災



..... 家屋の倒壊
(全壊のみ)

三木市
11人 24件

西区
11人 337件



阪神・淡路大震災の被害



震災直後の被災者



車とテントでいっぱいの避難所 =神戸市長田区= (神戸新聞社提供)



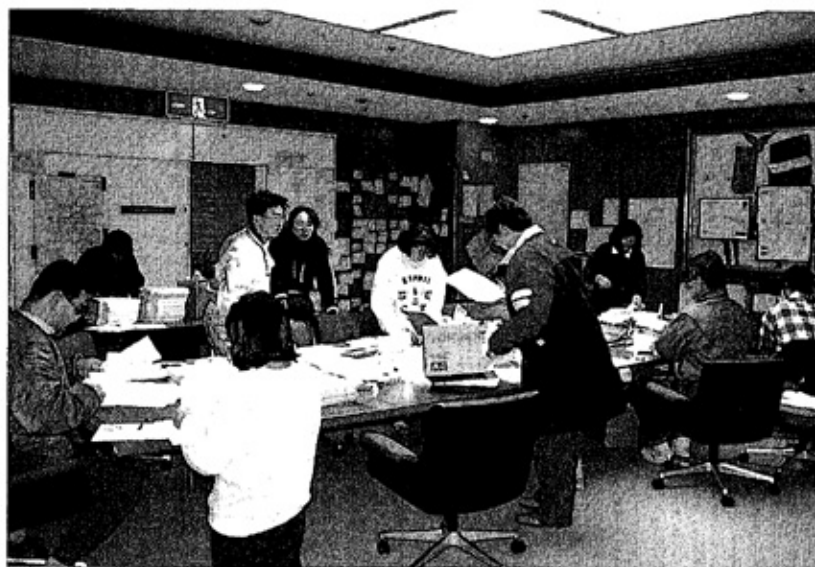
長びく避難所生活 =神戸市長田区= (神戸新聞社提供)



全国から寄せられた救援物資、日用品を求める市民が詰めかけた =神戸市兵庫区= (神戸新聞社提供)

社協による 救援活動

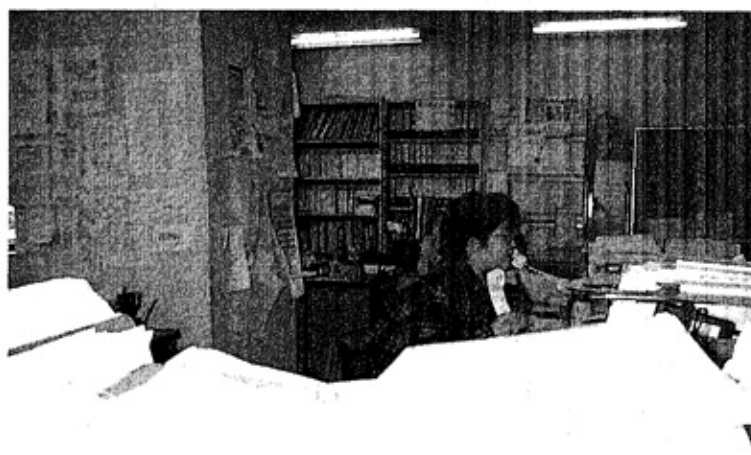
震災直後の社協救援活動の写真は数少ない。なぜなら被災者の心情を考えると、とてもカメラのシャッターを押せなかったからである。ここでは、数少ない貴重な写真を掲載する。



被災者への救援活動を調整する西宮社協職員たち =西宮市=



支援ボランティアと打ち合わせをする社協職員 =津名郡一宮町= (徳島県社協提供)



一度に何本もの電話に対応する =県社協にて=



炊き出しには多くのボランティアが参加した 神戸市= (春日町社協提供)



倒壊家屋の後かたづけを手伝う
ボランティアと社協職員 津名郡一宮町= (徳島県社協提供)



県内社協の入浴車も大活躍 芦屋市=



救援物資を整理も大事な救援活動
(加古川市社協提供)



炊き出しの準備は早朝から始める
(加古川市社協提供)



県内の社協も救援に続々とかけつける =芦屋市=

社協の 仮設住宅地域 支援活動



仮設住宅地域にある集会所“ふれあいセンター” =津名郡一宮町=



雨が降ると道がぬかるむ仮設住宅



仮設住宅への支援するボランティアをコーディネートする社協



仮設住宅改修に汗を流す社協職員 =津名郡一宮町=



県内各地から仮設住宅住民向けの青空市が開かれた =西宮市=